

台風第20号に対する農作物等管理技術対策について

平成27年9月16日
埼玉県農林部

強い勢力の台風第20号は、今後の進路によっては、関東地方に接近する可能性があります。

この対策として、以下の農作物等管理技術対策を作成しましたので、参考にしてください。

なお、台風の接近中は身の安全のため、作業を行わないでください。

I 事前対策

共通事項

- 1 台風に備え、排水路や明渠の点検・整備を行い、ほ場の停滞水に備える。
- 2 作物により防風網を設置するなど、強風に備える。

園芸用ハウス

- 1 園芸用ハウスでは、フィルムの破れ、支柱、支線、ターンバックルなどを点検・補修し、必要に応じて筋交いを入れたり、防風ネットで覆うなどして補強する。
- 2 特に、積雪で被害を受けたハウスや施工中のハウス、イチゴ等で天井部のみ被覆しているハウスは入念に点検し、対策を講ずる。
- 3 台風襲来直前対策
 - 出入り口、天窓、サイドをしっかりと固定し、隙間からの風の吹込みを防ぐ。
 - 停電、浸水による漏電等が想定されるので、不必要な電源は遮断しておく。
 - 換気扇をまわしてハウス内部を負圧にし、被覆材のバタつきを防ぐ。

水 稲

- 1 台風に向けて早刈りした場合は、籾水分が高く急激な乾燥は玄米品質を低下させるので、籾水分が25%程度になるまでは送風のみで乾燥する。

大豆・そば

- 1 事前に排水溝が排水路につながっているか点検し、ほ場の停滞水に備える。

野 菜

◎露地なす

- 1 強風に備えて、V字仕立ての支柱や枝の誘引などについて点検・補強する。

◎ねぎ

- 1 強風による倒伏を防止するため、土寄せのできるものは早めに実施する。た

だし、湿害に伴って軟腐病や白絹病の発生がみられるほ場では、暫く土寄せや追肥は避ける。

◎ほうれんそう、こまつな、だいこん等

- 1 降雨による播種床の固結、発芽直後の茎葉の損傷を防止するため、寒冷紗や不織布などでべたがけ被覆する。
- 2 トンネル被覆資材等が強風などであおられないように点検・補強するとともに寒冷紗などのすそは確実に土中に埋める。

果 樹

- 1 収穫できる果実は事前に収穫する。
- 2 棚や支柱、網などを補強し、上下の揺れを少なくする。

花植木

- 1 排水対策を行うとともに、フラワーネット等の点検・補強を行う。

II 通過後の対策

共通事項

- 1 台風通過後は、病害虫の発生を防ぐため、薬剤防除を行う。

水 稲

- 1 冠水した水田では、速やかに排水する。ただし、台風通過後に高温・強風が懸念される場合は、天候が安定するまで深めの湛水状態を保つ。
- 2 倒伏した場合、穂発芽の発生が心配されるため、速やかに排水しほ場の乾燥を早める。また、倒伏により熟期ムラを生じた場合は、できる限り刈り分けを行い品質の低下を防ぐ。

大 豆

- 1 浸冠水したところは、滞水による根腐れを防ぐため、速やかに排水する。
- 2 泥水や倒伏で莢が汚損した場合は、病害虫防除の際に莢を洗い流すように薬剤散布を行う。

そ ば

- 1 ほ場の高温多湿条件は、根腐れを助長するので、停滞水の速やかな排水とほ場の乾燥に努める。また、ほ場周辺に排水溝を設置する。
- 2 雨の影響で萎凋・枯死した場合は、速やかに追いまきを行う。

野菜

◎露地なす

- 1 台風通過後の停滞水に伴う根の活力低下により青枯病、半身萎凋病等が発生しやすいため、速やかな排水対策を徹底する。
- 2 台風通過後は、褐色腐敗病等が発生しやすいので速やかに薬剤防除を行う。
- 3 風雨等により確実に商品価値が低下するとみられる果実は早く摘果し、草勢の回復を図る。

◎施設きゅうり・トマト

- 1 台風通過後の急激な湿度低下による葉焼けを防止するため、施設の換気は徐々に行う。
- 2 施設の密閉や多湿により、きゅうりでは褐斑病、べと病、トマトでは疫病等が多発しやすいので、天候回復後速やかに薬剤防除を行う。

◎いちご

- 1 浸冠水が見込まれる定植予定ほ場では、ハウス周辺に排水溝を設置して浸水の防止、排水ポンプによる強制的な排水などにより、適期に定植できるよう準備を進める。
- 2 定植後のハウスへの浸冠水においても、炭疽病や疫病等の発生が懸念されるので、薬剤防除を行う。速やかな排水に努め土壌の通気性を確保し、活着及び根の伸長を促進する。

◎ねぎ

- 1 台風通過後の停滞水の温度上昇は、根腐れ及び軟腐病等の発病を助長するので、ポンプ排水するなど速やかな排水に努める。
- 2 収穫期に達しているほ場では、高温多湿による軟腐病の被害が拡大する前に、ほ場での作業が可能になりしだい、速やかに収穫・出荷を行う。その際、病株の混入は商品性を著しく損なうので、厳選に努める。
- 3 天候が回復しだい、軟腐病・白絹病・小菌核腐敗病等を対象に速やかに薬剤防除を行う。

◎やまといも

- 1 いもの肥大期になっており、浸冠水すると腐敗の発生や肥大不良になるので、停滞水の速やかな排水に努める。
- 2 風雨により葉渋病や炭疽病の発生が懸念されるので、台風通過後は速やかに薬剤防除を行う。

◎えだまめ

- 1 連作ほ場等で湿害に伴って白絹病の発生が予想される場合は、薬剤防除を行う。
- 2 草勢の回復を図るため、10a当たり窒素成分で1kg程度の追肥を行う。

◎ブロッコリー、キャベツ、はくさい

- 1 台風通過後は風雨により軟腐病・べと病・黒腐病・黒斑細菌病の発生が懸念されるので、薬剤防除を行う。

- 2 天候が回復しだい、早めに中耕を行い、土壌の通気性を確保する。
- 3 定植直後のほ場で、土壌が流亡した場合は、株元に軽く土寄せを行って倒伏を防ぐ。
- 4 浸冠水の影響を受けやすいほ場では、周囲に排水溝を設置するなどして雨水を強制的にほ場外へ排水する。

◎にんじん

- 1 浸冠水によりほ場の土壌が流亡した場合には、株元に軽く土寄せを行って倒伏を防ぐ。
- 2 降雨に伴う高温多湿により黒葉枯病の発生が懸念されるので、速やかに薬剤防除を行う。

◎ほうれんそう、こまつな、だいこん等

- 1 葉の損傷等が見られた場合には、速やかに薬剤防除を行う。

果 樹

- 1 落下した果実は速やかにほ場外へ搬出する。くりでは出荷可能な果実は選果を良くし出荷する。
- 2 葉・枝・果実の損傷が発生した場合は、なしでは輪紋病、ぶどうではべと病や晩腐病、いちじくでは疫病、りんごでは腐らん病の発生が懸念されるので、薬剤防除を行う。

花植木

- 1 倒伏した株は引き起こして株元を軽く押さえ、噴霧器等で付着した土を洗い流すよう薬剤散布を行い、病害の発生を予防する。
- 2 破損した茎葉は病害の発生源となることから速やかにほ場外へ搬出する。
- 3 浸冠水した施設、資材等は必要に応じ消毒を行う。

茶

- 1 降雨による湿度上昇などにより炭疽病が発生しやすくなるので、炭疽病に弱い「さやまかおり」や炭疽病が常発するほ場を中心に薬剤防除を行う。

飼料作物

- 1 飼料用トウモロコシが倒伏した場合、収穫適期である黄熟期まで20日以上前(乳熟期より前)であれば先端の起きあがりを待ってから収穫・貯蔵を行う。
- 2 土砂の混入はサイレージ発酵の品質低下を招くので、収穫時には混入しないよう刈高を調整する。

◎農薬はラベルに記載されている適用作物、使用時期、使用方法等を十分確認の上、最終有効年月までに使用してください。農薬の最新情報については、農産物安全課のホームページでご確認ください。

<http://www.pref.saitama.lg.jp/a0907/nb/arfdnouyakutourokuhenkou.html>

